

## 放流効果について



## 1 ヒラメ

(経緯)・平成4年度より放流を開始、平成12年度より第4次計画に位置付けて大量放流を実施。

・現行の第8次計画では令和8年度に10万尾の放流を目標としている。

(効果)・漁獲量は5～6トン程度で推移していたが、R1年より増加し近年は15～25トン程度の漁獲がある。

・混入率は令和4年時点で5.7%

※混入率とは漁獲魚に占める放流魚の割合

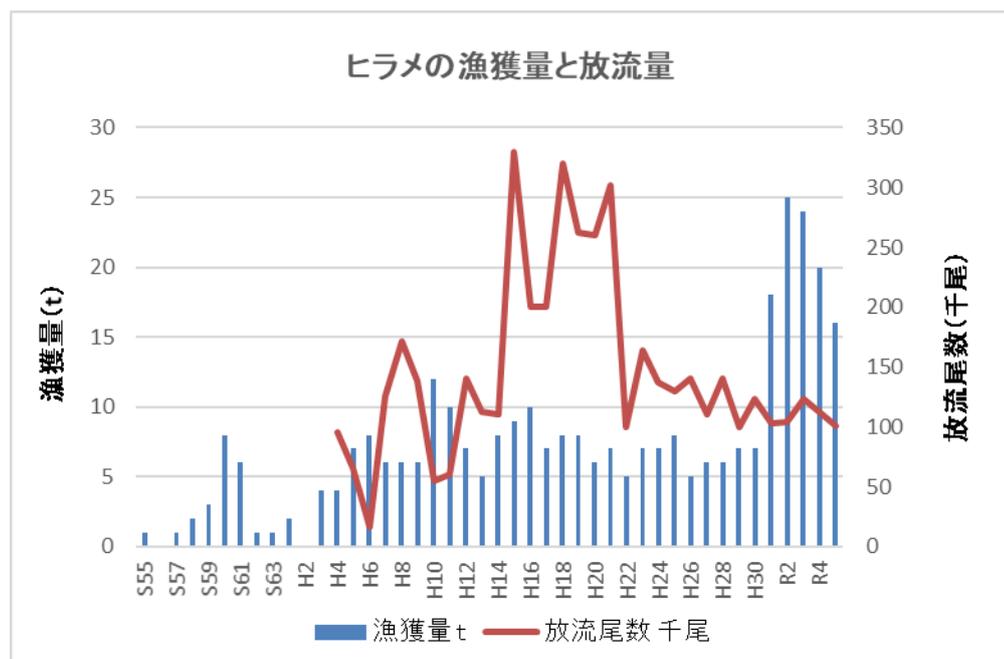


図1 ヒラメの漁獲量（統計値）と放流量の推移

## 2 キジハタ



(経緯)・平成12年度より第4次計画の技術開発魚種に位置づけ、種苗生産と放流の検証をスタート。

・平成22年度より第6次計画の放流魚種に位置づけ、年間10万尾程度の放流を、以降継続して実施。

・現行の第8次計画では令和8年度に11万尾の放流を目標としている。

(効果)・漁獲量は昭和63年には10トン程度漁獲されていたが、平成に入りほとんど漁獲がなくなった。

・放流の開始以降、漁獲量は徐々に増え始め、近年は2～4トン程度で推移。

・混入率は令和4年時点で54.3%

※混入率とは漁獲魚に占める放流魚の割合

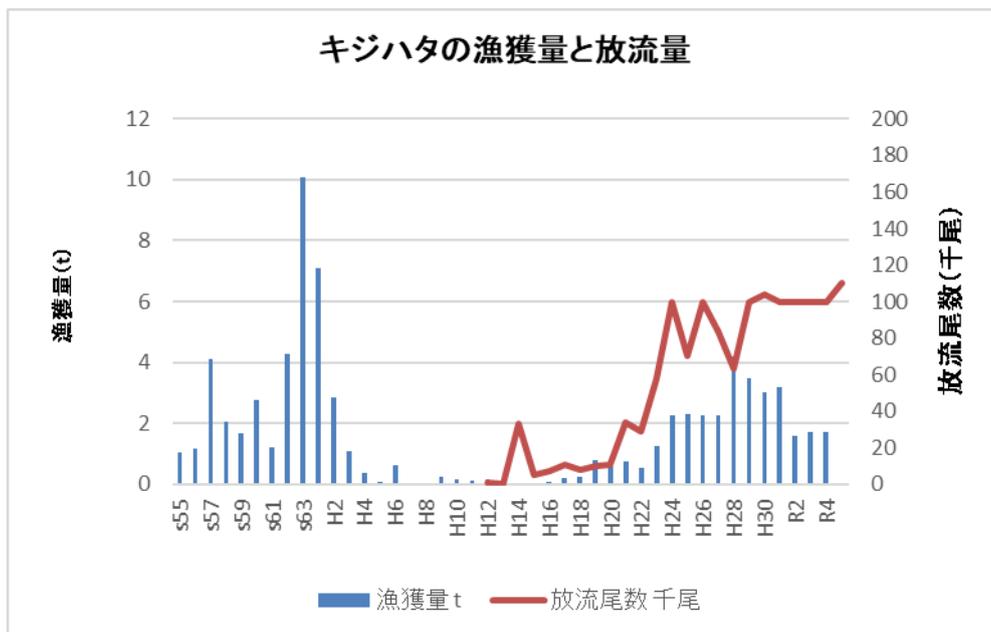


図2 キジハタの漁獲量（推定値）と放流量の推移

### 3 アカガイ



(経緯)・平成4～6年にかけて第2次および第3次計画に基づき、最大4万個放流。  
以降中止。

・平成27年より、第7次計画の放流魚種に位置づけ放流を再開。5～10万個程度の放流を実施。

・現行の第8次計画では令和8年度に5万個の放流を目標としている。

・これまでは水産技術センターの調査船により放流を実施していたが、令和5年度からは漁業者自身により放流を実施した。関空島周辺の採捕禁止区域に放流することで、再生産への効果を期待。

(効果)・過去より漁獲量の変動は大きいものの、放流の開始以降は20～40トン程度で高い漁獲が続いている。

・混入率は令和4年度時点で1.8%（泉佐野漁協）。

※混入率とは漁獲魚に占める放流魚の割合

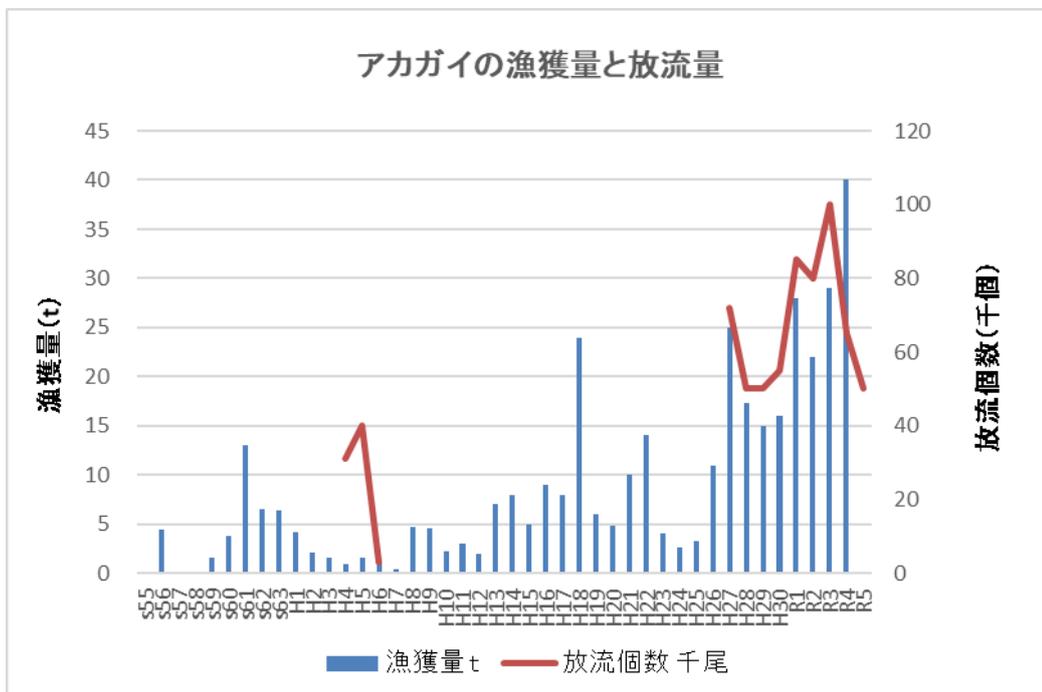


図3 アカガイの漁獲量（推定値）と放流量の推移

#### 4 トラフグ



(経緯)・平成27年度の第7次計画より、技術開発魚種に位置づけ、年間1～3万尾程度の放流を実施。中間育成技術や放流適地の検証等を行ってきた。

- ・現行の第8次計画からは、放流魚種にも併せて位置づけ。  
令和8年度に年間5万尾の放流を目標としている。

(効果)・大阪での漁獲量は年間200キロ程度と推定。これまでは技術開発段階であり、放流数が多くないことから、資源造成の効果は表れていない。

- ・再捕獲の状況としては、7月頃に放流した個体が、11月頃から25センチ程度の当歳魚として漁獲され始める。1歳魚以上の再捕獲は少ない。
- ・令和4年度では月1～2回の標本漁協での市場調査を中心に13個体が再捕獲。
- ・令和5年度には、泉佐野漁協の市場調査で、2020年に堺浜から放流された個体(3歳魚：405mm、2kg程度)が1個体確認され、これまでで放流後最も時間経過して採集された事例となった。
- ・トラフグは広域で瀬戸内海を移動することから、放流を実施している瀬戸内海の各府県と連携し、放流個体の情報収集を実施。岡山県や広島県での再捕獲の情報あり。併せて遊漁でトラフグが釣獲された際には報告がもらえるよう大阪湾北部沿岸および和歌山県紀伊水道側の遊漁釣り場を中心にポスターを掲示した。

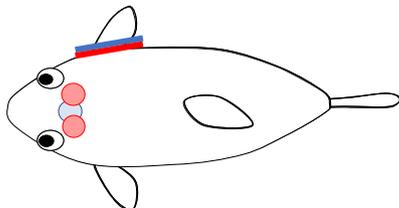


図4 トラフグの標識(有機酸、ひれカット)

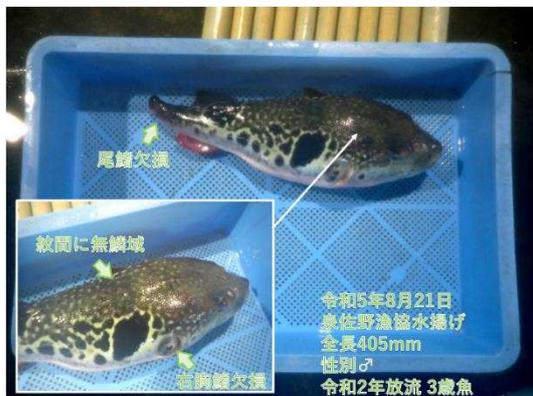


図5 再捕獲された3歳魚

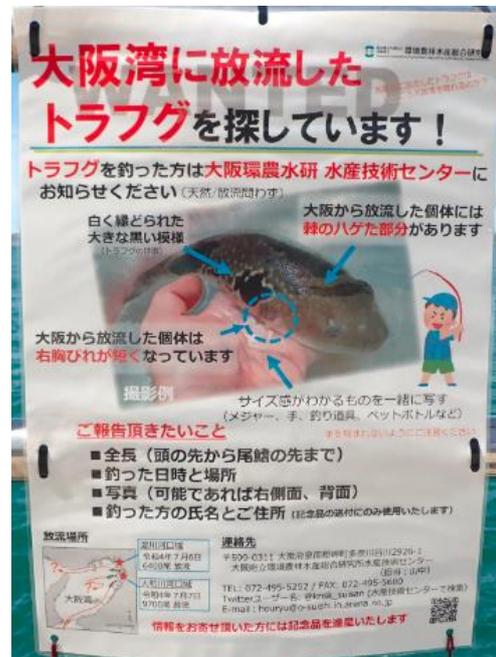


図6 トラフグ釣獲情報提供依頼ポスター

## 5 メバル



(経緯)・令和4年度の第8次計画より、技術開発魚種に位置づけ、放流効果の検証を開始。

- ・スパゲティタグで標識した個体約1万尾を、岬町の増殖場周辺に放流。
- ・現在の大阪府内での漁獲量は推定で5トン～10トン程度。

(効果)・放流後の移動、成長の把握のため、随時漁獲物調査を実施中。

- ・SNS等を活用してメバルの標識放流について周知を行った。昨年度の放流以降、12月上旬までに釣り人から81件の採捕報告が寄せられた。半数以上は放流場所である岬町周辺で採捕されていたが、和歌山県加太から貝塚市周辺でも採捕され、放流場所から最も遠いものでは神戸空港から報告があった。昨年度は令和4年6月と令和5年1月に標識放流を行ったが、6月に放流した個体は発見されなかったことから、高水温期の放流は不適であると判断し、今年度の放流は1月に実施した。

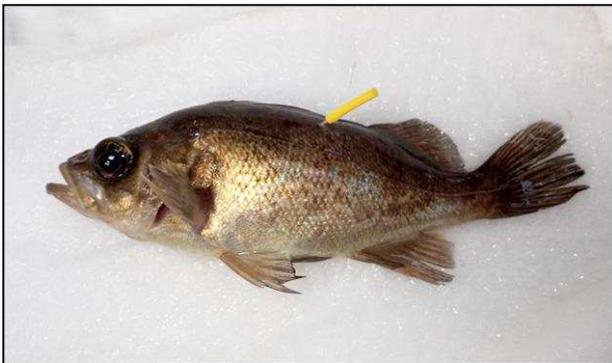
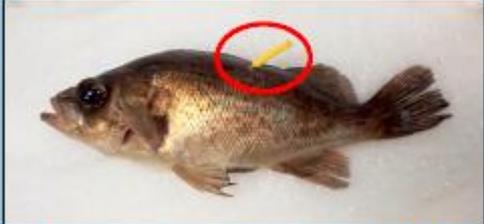


図7 標識を装着したメバル

**標識がついた  
メバルを探しています！**



大阪環水研水産技術センターでは、2022年より標識をつけたメバルを放流し、移動や成長についての調査を行っています。背中に標識がついたメバルが獲れたらご報告をお願いします。放流した年度や場所によって標識の色が異なります。

**【ご報告いただきたい事項】**

- 採捕日 ●採捕場所 ●標識の色 ●大きさ

**【お問い合わせ先】**  
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所  
水産技術センター 担当：木村・辻村  
〒599-0311 大阪府泉南郡岬町多奈川谷川2926-1  
TEL:072-495-5252 / FAX:072-495-5600  
E-mail:houryu@o-suishi.in.arena.ne.jp



メバルはこちら

図8 メバル再捕獲情報提供依頼ポスター